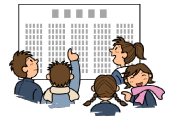




北東中だより

人皆に 美しき種子あり 明日何が咲く

NO. 10



文責 仙洞田茂雄



青春真っただ中！

残り1か月



立春を過ぎ、暦の上でも春となりました。春一番が吹き荒れ、道端にさす光に春の予感を感じる今日この頃。3年生は残りわずかとなりました。卒業までには高校受験があり、気の休まらない日々ですが、体調に気をつけ最後の力を発揮して難関を突破してほしいと思います。また、在校生も残り1ヶ月です。全校生徒が「飛躍」の年だったと言えるような時間を過ごしてほしいと心より期待しています。



今回は3年生に送る最後の学校だよりとなります。この1年間、様々な思い出がよみがえります。感極まったの涙あり、笑いあり、感動あり、様々な思いの交錯する1年でした。特に3年生にとっては、連休明けすぐの修学旅行。奈良や京都の世界遺産や文化に触れ、友と過ごした時間は、今となっては大切な思い出です。



全校生徒で取り組んだ総体、二葉祭、秋の合唱、新人戦、諸行事も全て鮮明に思い出される輝かしい青春の1コマには、皆さんの常に一生懸命な姿がありました。また、学習をはじめ、生徒会活動、学年・学級での取り組み、日常的な活動が皆さんをここまで大きく成長させてきたものと思います。残すところ数日ですが、高校受験を乗り越え、立派な卒業の日を迎えることを期待しています。



在校生へ「繫」今…

平成28年度生徒会長 宮井賢人

「繫」をテーマにした今年度も、もう1年がたちます。1年間生徒会活動へのご協力ありがとうございました。どの活動においても皆さんが積極的に参加してくれたおかげで、北東中がさらに前進したのではないかと思います。残す日にもわずかになり後輩に引き継ぐ時期となりました。1・2年生はこれから良い学校を目指して努力して欲しいと思います。しかし、その中で、1人では解決できない問題も起こると思います。その時は、周りにいる信頼できる友達や先生を頼って一丸となって乗り越えてほしいと思います。僕自身も1・2年生のいつも変わらない明るい声に励まされていました。そんな思いやりをもって皆さんなら、北東中をさらに発展させていってくれると確信しています。全員が自信をもって輝いていると言える学校をつくってください。全校生徒の皆さん本当にありがとうございました。



二十歳の手紙封緘式 (ふうかんしき) ～ まだ見ぬ自分へ ～



2月25日、北東中学校で「20歳の手紙の封緘式」が行われました。本校朝礼台（校庭南側の中央）横にある石でできたオブジェは、平成21年北東中50周年を記念して作られたものです。この記念碑の中は空洞になっており、タイムカプセルの役割を果たし、上方にはそれを象徴するかのよう、日時計がついています。50周年以来、生徒は毎年この時期になると「20歳になった時の自分」に向けての手紙を書き、親や親族は「20歳になった時の君」にむけてのメッセージに切

手を貼り、この記念碑の中に収めてきました。代表の鍋谷さんからのメッセージです。

「私は先日、学年を代表して、「二十歳の手紙」を封緘させていただきました。この手紙には、二十になった自分に向けて、今抱えているたくさんの思いや感情が綴られていると思います。私はそんな手紙を封緘し、3年間の中学校生活を少し振り返ってみました。1年生の4月、期待と不安を胸に入学式を迎えました。それから多くの人と出会い、時には別れ、関わりあってきました。辛く悲しいこともありましたが、大切な仲間と乗り越えてきたこの3年間は、本当にあっという間でした。そして、その時間も、大切な仲間も、私にとってはかけがえのない宝物です。そんな居心地のいい場所を旅立ち、新たな場所へと向かうのは、正直とても怖いですが、そこから逃げることはできません。残りわずかな中学校生活を楽しみ、良い卒業、スタートができるようにしたいです。そして5年後のみんなが何をしているのかを楽しみに、これからも前を向いて歩いていきたいです。」



平成28年度生徒会副会長 鍋谷咲希

平成29年度新生徒会本部活動始まる ～3年生に贈る会への取り組み～



昨年の暮れに来年度の生徒会会長・副会長が選挙で選出されました。執行部を組織し、2年生を中心に平成29年度に向けた新しい生徒会本部が結成されました。現在は3年生に贈る会（3贈会）に向け、1・2年生で様々な取り組みをしております。学年における中学校生活も残りわずかとなりました。生徒会本部を



中心に思い出に残るものとなるように期待しています。今回は、生徒会長の小澤明門くんからの、3贈会への思いと今後の抱負を載せます。

「2つの YELL・・・私たち生徒会役員は、3年生に贈る会に向けてテーマ「YELL ～つながらる 293 の想い 受け継ぐ北東魂～」をテーマに掲げ、活動に取り組んでいます。

この会に向けた取組を通して、3年生が「繋」いでくださった伝統を受け継ぎながら、今度は自分たちで北東中学校を創っていきたくと思っています。しかし、前に立ちリーダーとして行動することに対する責任や不安があることも事実です。改めて3年生の存在の大きさを感じています。

これまで北東中学校の先頭に立ち続けてくださった3年生に感謝の気持ちを伝えようということを確認し、1・2年生は活動しています。もう3年生を頼ることはできません。1・2年生が協力し、293人「全員」で三贈会を創らなければなりません。そして、「全員」でやるからこそ、この会に意味があると思っています。



この三贈会は今のメンバーで創る最初で最後の会になります。3年生からの「想い」や「伝統」を繋ぎながら、3年生に感謝の気持ちを伝え、YELLを贈りましょう。そして、この会を成功させ、1・2年生は自分たちに対しての YELL にしていきましょう。



新入生保護者説明会 開催



2月6日(月)、平成29年度新入生保護者説明会が開催されました。当日は新入生保護者の皆様にはお忙しい中ご出席して頂きありがとうございました。本校は創立57年、全校生徒数294名の学校です。来年度の新入生は現在90名を予定しており、3学級編成でのスタートとなります。本校の教育目標は4点ほど掲げてありますが、中でも「新しい時代を生きぬく子ども」という視点で考えると、成長著しいお子さんが、本校のこの3年間の中で、何を体験し何を学び取るか、私たちにとって重要な教育目標の一つとして考えております。以下は当日の、私からの話の一節です。



「こんにちは 本日は平成29年度北東中学校新入生保護者説明会に大変お忙しい中ご参加頂きありがとうございます。

立春が過ぎ、これからは春を迎える準備の季節となりました。早いもので、小学校での生活も残すところ、30日余りでしょうか。子どもたちも小学校への別れの寂しさと、新たな中学校への期待に胸を膨らませていらっしゃると思います。これから始まる中学校生活に不安もあるかと思いますが、本日の説明会で少しでも安心していただければと思います。短い時間ではありますが、企画させていただきました。

本年度教育の重点に置いたことの中に、新しい時代に生きぬく子どもを掲げ、文武両道、豊かな感性、気品ある学校を目指してきました。また、失敗を恐れず挑戦する生徒像を描き、1人ひとりが互いの良さに気づき学び合う学級を研究テーマに。また、職員には何事にも真摯に向き合い、教師力を高め合うよう、私自身心がけてまいりました。

さて、昨年より、地域の小学校で、本校が取り組んでいる自主学習ノートの展示等させて頂き、学校の様子を少しずつ感じていただけたと思います。また、新紺屋小、相川小6年生には、実際に学校訪問をしていただき、学習の様子や、部活動などから、見違えるように成長した先輩を目の当たりにし、言葉で説明することができないくらいの変化を感じとったことと思います。同時に、子どもたちの輝いた目が印象に残り、その姿に、中学生になったらこんなことをしようという意気込みを感じました。そして来年度は3学級でスタートする予定です。

最期に、思春期で難しいとされるこの中学校生活の中では、学力同様、子どもたちの豊かな感性を伸ばすことが重要だと考えています。そして、子どもたちの力をつけていくには、保護者の皆様との連携が何より必要です。4月から始まる新たな出会いの中で、将来の夢に向かい、人として生きていく土台をしっかりと築けるよう努力していきますので、よろしく願いいたします。」

平成28年度 甲府市撫子賞 表彰式



困っている人を助けたり、進んで地域活動に参加したり、社会福祉に奉仕したり、良いことをした子どもを表彰する「撫子賞」の受賞式が2月8日に甲府市教育研修所で行われました。撫子賞は「新しい時代を担う人づくり基金」事業の一環として、「思い遣(や)る心」をもった個人または団体に贈られるもので、他の模範となる行いをした児童・生徒を奨励する「善行賞」と、友達や下級生などを思いやる子を表彰する「友達賞」があります。

本校では3年2組の瀧波欽太君が「善行賞」受賞し、市長さんから賞状と盾をいただき、記念撮影を行いました。

瀧波君の受賞後の言葉です。「この度、名誉ある賞をいただきありがとうございました。素直にうれしいです。私は小学生の時も撫子賞をいただきました。小学生の時も今も私は、自分が正しいと思ったことをただ行動に移してきただけです。最近、私の行動は、周りに迷惑ではないか、本当にこのような行動をとっていいのかなど自信がなくなっていました。しかし、撫子賞をいただき自分の行動が誰かの役にたっていると思い、とても自信ができました。だからこれからも自分が正しいと思ったことは周りの人のために積極的に行動に移していきたいと思っています。このような賞をいただいたのは、これまで育ててくれた両親、先生、仲間がいたからだと思います。決して私の行動が正しかったとは言えないと思います。実際今まで多くの失敗を繰り返してきました。そんな時に、愛を込めて多くのことを教えてくれた両親、集団で行動する難しさや楽しさを教えてくれた先生、いつも私を支えてくれた仲間があってこそ今の私がいると思います。これからも多くのことを周りの人から学び、少しでも人の役に立てるようになりたいと思います。」

以前都内の大学で行われた講演会に私は家族で出かけた。会場にはおよそ 1000 人はいたのだろうか、立ち見で通路もふさがれる盛況ぶりだった。ジャーナリスト沢木耕太郎氏の講演会である。颯爽と沢木氏が登場すると、会場は期待と興奮でどよめくような空気に包まれた。沢木氏の代表作「深夜特急」はインドのデリーからロンドンまで、当時の旅人とは逆ルートで、約1年1人乗り合いバスで旅した紀行文である。2万キロ以上、軽く地球半周を超える旅。地球の大きさを自分の足で歩きバスに乗り、町から町、国から国、陸路で国境を越えていく。1970年代当時の世界を、バックパッカー一つで旅する当時26歳の沢木氏の姿に、多くの人の心が動かされた。

1人乗り合いバスの窓から見えたものはなんだったのか。沢木氏は著書「旅する力」の中で振り返る。「窓の外を見たり、何か他のものを見る時、自分が何を見ているかわかるかい？ 自分自身を見ているんだ。ものごとが美しいとか、ロマンチックだとか、印象的に見えるのは自分自身の中に、美しさやロマンス、感激があるから。目で見ているのは、実は自分の心の中を見ているのだ。」と作家フレデリック・ブラウンの言葉を引用した。「旅とは何か」を瑞々しい感性で捉えていった。



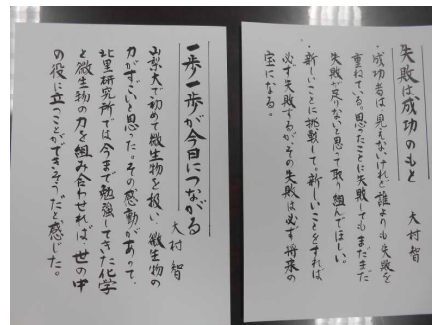
講演が始まった。演題は「旅する力」。「旅は速さや広さではなく、深さや濃さにある。貧乏旅行の途中、お金がないために様々な摩擦が生じ、そのおかげで僕は人との関わりが生まれ、結果として旅は深くなり、その中から見えてきたものが実にたくさんありました。1人旅の道連れは自分自身。美しい風景に感動しても思いを語る相手がいない。それは寂しいことだが、吐き出されない思いは深く濃いものとなり、自分の心の中に大切にしまわれるのです。」「旅には予想できない危険な面もある。肉体的、精神的、物理的に危機が訪れる時、どこまでなら自分が戻れるのか、どこまで行ったら戻れなくなるのか、計算し察知する力が必要です。また旅の過程で何を感じられたのか。そこに吹いている風や流れている水を、降りそそぐ光や行き交う人をどう感受できたか、それらの力は旅する力、つまり生きる力なのです。」

「旅は人間がいかに小さいかを教えてくれる場である。そして、大きくなるための力をつけてくれる場でもある。旅はもうひとつの学校。入るのも自由出るのも自由。大きなものを得ることも出来るが、失うこともある。教師は世界の人々であり、教室は世界そのものである。これから旅に出る人にもう一つ言葉を贈りたい。旅に教科書はない。教科書をつくるのはあなたなのだ。」言葉の一つ一つが心に響き、勇気が湧いてくるようだった。鳴りやまない拍手。私は背中を押され、移りゆく季節とともに爽やかな気持ちで会場を後にした。

3年生110名の輝かしい未来に向かう姿をいつまでも応援しています。
北東中学校職員一同

今後の予定

3月	7日	公立高校後期募集検査 1・2年到達度テスト 3年生に贈る会 3学年P総会
	10日	同窓会入会式
	12日	前日予行練習
	12日	第55回卒業証書授与式
	13日	入学許可予定者発表
	14日	入学許可予定者発表
	14日・16日	三層楼を磨こう
	17日	12日の繰り替え休日
	24日	修了式 離任式



大村智先生の言葉

◎今年度ものこりわずかとなります。受験、卒業、進級と大きな節目を前にしております。体調管理をしっかりと準備して下さい。

